

新品種の赤花リンドウ生産へ向け



安代地区を中心に栽培され、出荷量日本一を誇る安代リンドウの栽培ほ場。多様な消費者動向への対応や産地間競争・輸入外圧などが激化する中、新たなオリジナル品種の開発が待たれます

国際交流で本格開発へ

日本一のリンドウ生産量を誇る「安代リンドウ」は、学術的にも貴重な赤い品種の試験栽培に取り組んでいます。これまで花を通じた交流を行っている、ニュージーランドのクロップ&フード研究所が開発した赤花リンドウの新品種に安代リンドウを交配し、組織培養で増殖。市花き研究開発センターで試験栽培し、市の気候に適したものを生産者に普及させ、本格生産を目指していきます。

リンドウ新品種開発と海外市場開拓が必要に

リンドウは、リンドウ科の多年草で、山野に自生する花です。日当たりのよい草原に見られる多年生草本植物で、初霜が降りる晩秋まで咲く野花の一つでした。岩手県は昼夜の寒暖の差が大きいため、リンドウ栽培に適しているとされ、減反が進んだ米に代わる作物として昭和30年代から県内で本格的に生産が盛んになりました。その後、岩手の風土に合ったオリジナル品種を育成し、昭和40年代後半から旧安代町を中心に、組織的に栽培が開始されました。

昭和60年には生産額、栽培面積、販売額ともに、旧安代町が日本一になりました。

近年、国内の花き市場では輸入品が増え、花の単価が下落傾向にあります。また、花の色が青、白、ピンクの3色しかなく、盆や彼岸以外の需要が少ないため、他の色を付ける品種の開発、海外市場の開拓が必要となっていました。

市花き研究開発センターでは、日本の冬でもリンドウが出荷できる南半球に着目し、平成4年度からニュージーランドの花き研究所に試験栽培を委託。このことが縁となり、共同で品種開発に取り組むなど、旧安代町とニュージーランドとの交流が始まりました。

市長らが合同育種会社の取締役会に出席

〜リンドウの新品種開発へ交流を深める〜



市では、安代地区の気象条件に適した赤花リンドウの開発促進に向け、ニュージーランド関係者と昨年設立した合同育種会社を本格的に稼働させるため、田村正彦市長、市花き研究開発センターの日影所



ニュージーランドで安代リンドウの栽培に取り組んでいるパスコ夫妻

長、高橋技師、中間法人安代リンドウ開発の高村理事などが4月に同国の育苗会社、生産者、研究所を訪問しました。

4月12日には、旧安代町から苗の育成を委託したことが縁で交流を始め、現在では南島一の生産量を誇る育苗会社を訪問。最先端機械の導入などによる合理的な生産・販売内容を視察しました。

同日には、安代リンドウの栽培に最初から取り組み、日本への輸出向け栽培を多く手掛ける生産者のパスコ夫妻を訪問。日本へ輸出する際の検疫対応、連作障害の克服など、栽培・出荷方法について視察しました。

4月13、14の両日は、ニュージーランド政府が出資した独立行政法人で園芸作物の研究センターであるクロップ&フード研究所を訪問。ここでは、旧安代町、中間法人安代リンドウ開発、クロップ&フード研究所、育種家のジョン・モフアットさんの4者で昨年6月に設立された合同育種会社リンドウインターナショナル有限公司の初の株主総会、取



クロップ&フード研究所のグラハム・スメリー事業部長と握手する田村市長

締役員が行われました。

取締役会では、合同育種会社における今後の合同育種の進め方について話し合い、技術開発は市とニュージーランド側でそれぞれ行い、新品種を育成するため、定期的に相互訪問し技術交流を実施。新たに開発された品種は合同育種会社の所有になりますが、日本での販売独占権は、中間法人安代リンドウ開発が持つことに同意しました。

クロップ&フード研究所との技術交流では、研究者のエド・モーガンさんが露地で試験栽培する赤い品種「シヨータム」シリーズ(商用としては世界初となる日本で栽培さ



赤い花を咲かせた試験栽培中の赤花リンドウ

れるエゾリンドウと外国種との遠縁交配によるもの)の栽培地を視察しました。

これまで、クローン増殖した同じ系統の品種を安代地区で栽培しても、正常に生育せず、開花が著しく遅れる(開花時期が降雪期)という課題がありました。この「シヨータム」品種に市で開発するリンドウを交配させ、日本の気候に合った赤花リンドウを作っていくかなければならないことの認識が共有できました。

今回の技術交流により、これまで試験レベルでしか栽培されていなかった赤花リンドウが、開発に向け大きく前進。今後もニュージーランドと日本の生産者、技術者との交流を深めることにより、新品種育成の技術確立が図られることが期待されます。

友好を深める旧安代町とニュージーランドの歩み

- ▼平成4年度
旧安代町内花き生産者など6人が、ニュージーランドの花き生産状況を視察
- ▼平成5年度
クロップ&フード研究所にリンドウの試験栽培(3カ年)を委託
- ▼平成6年度
リンドウ栽培研究のため、ニュージーランド青年2人を研修生として4カ月受け入れ
- ▼平成7年度
旧安代町青年1人がワーキングホリデーを利用し、1年間ニュージーランドで花き研修
- ▼平成8年度
旧安代町内中学生のニュージーランド研修を開始。以後、毎年継続
- ▼平成9年度
ニュージーランド南島の生産者など5人が来町
- ▼平成10年度
ニュージーランド産リンドウを国内の主要花き市場に初出荷
- ▼平成11年度
リンドウの新規生産者拡大と栽培指導を実施
- ▼平成13年度
旧安代町内リンドウ栽培後継者など6人が、栽培指導と視察
- ▼平成14年度
旧安代町長を団長とする9人の視察団派遣。クロップ&フード研究所でニュージーランドとの合同育種について基本合意する。
- ▼平成15年度
旧安代町内生産者1人が栽培指導のためニュージーランド訪問
- ▼平成16年度
旧安代町内生産者1人が栽培指導のためニュージーランド訪問(11月)。ニュージーランドで栽培されたラブリアシロの挿し芽1000本を9月に逆輸入。冬季の鉢物栽培の可能性を調査。9月にホロフエヌア地区長夫妻が同地区の中学生とともに旧安代町を訪問

